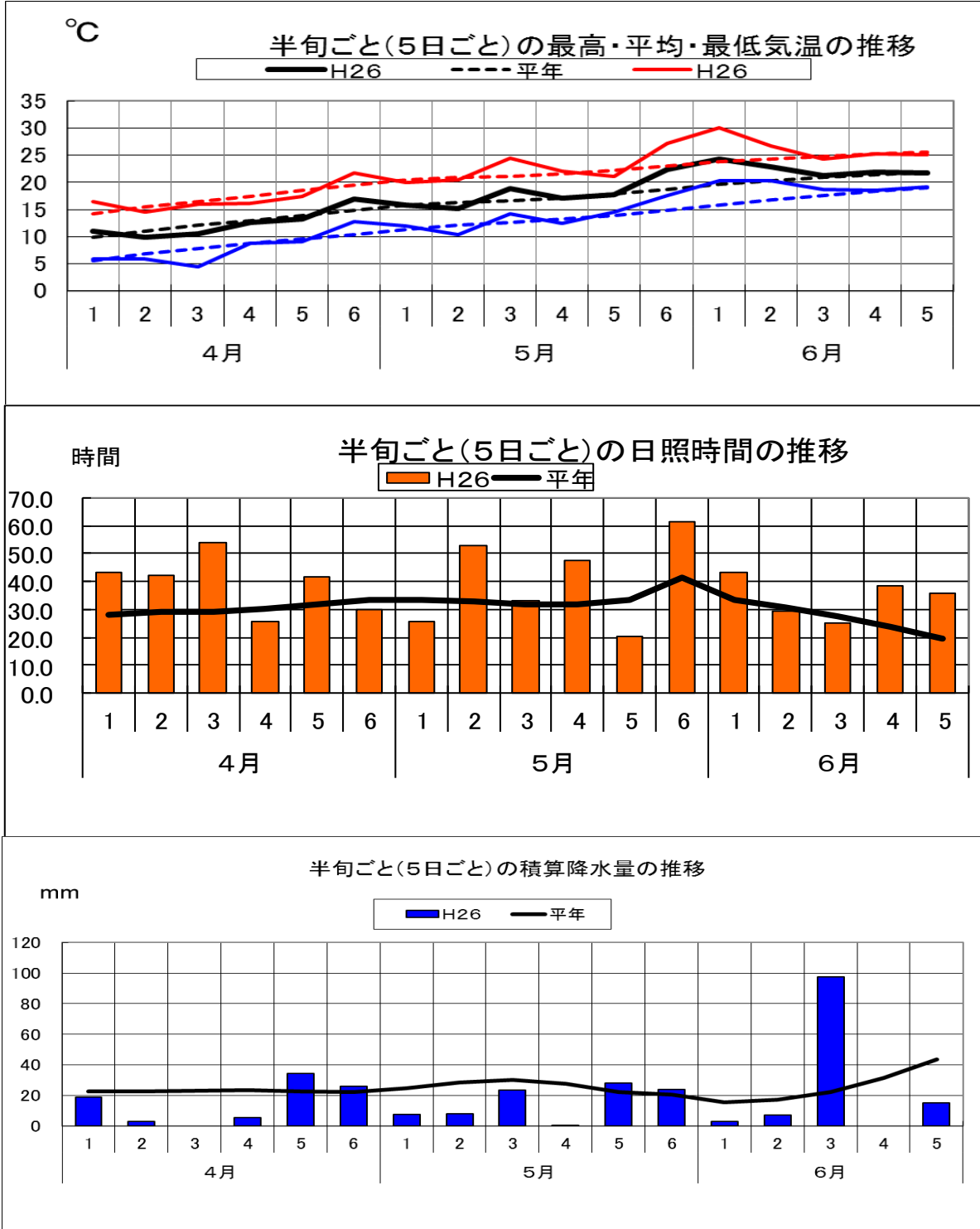


1 気象概況 (金沢アメダスデータ)



- 6月の気温は、上旬は高く推移したが、中旬以降は平年並に推移した。
6月の日照時間は多かった。6月の降水量は、第3半旬にかなり多かった。
- 6月26日発表の向こう1か月の予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多く、平均気温は平年並または高い確率ともに40%となっている。

2 生育概要

(6月27日調査)

品種名	区分	集落	草丈(cm)			茎数(株)			茎数(m ²)				葉数(葉)			
			本年	前年	前年比%	本年	前年	前年比%	本年	前年	前年比%	平年比%	本年	前年	前年比%	平年比%
ゆめみづほ	観	大浦	54.6	62.8	87	26.2	29.6	89	511	579	88	96	11.5	11.3	101	104
	観	柚木	56.2	67.4	83	25.2	29.2	86	450	520	86	83	10.7	10.6	101	99
	観測田平均		55.4	65.1	85	25.7	29.4	87	481	550	87	89	11.1	11.0	101	102
	J	沖	59.3	60.4	98	35.6	30.4	117	648	550	118		10.7	11.2	95	
	J	上辰巳	54.3			28.9			613				10.6			
	J	下安原	53.6	58.3	92	27.9	32.1	87	508	581	87		11.1	11.0	101	
	J	東力	59.8	55.5	108	21.2	19.3	110	426	370	115		11.3	11.4	100	
平均			56.3	60.9	92	27.5	28.1	98	526	520	99		11.0	11.1	100	
コシヒカリ	観	御供田	59.8	63.7	94	27.6	23.8	116	510	447	114	101	11.1	10.8	102	105
	観	東荒屋	65.7	68.3	96	25.1	33.0	76	493	530	93	81	10.5	11.0	95	98
	観測田平均		62.8	66.0	95	26.4	28.4	93	502	489	104	91	10.8	10.9	99	102
	肥	東蚊爪	59.5	60.4	99	22.9	23.8	96	353	396	89		10.8	11.0	98	
	J	沖	59.6	68.9	87	16.7	27.2	61	304	492	62		10.5	11.1	95	
	J	北森本	58.3	63.5	92	21.8	30.9	71	296	420	70		10.9	11.0	99	
	J	不動寺	58.5	66.2	88	21.2	39.3	54	322	593	54		10.8	10.9	99	
	J	上辰巳	59.1	62.3	95	29.5	27.0	109	537	489	110		10.6	11.1	95	
J	下安原	55.4	60.5	92	26.0	26.2	99	473	474	100		11.3	11.0	102		
平均			59.5	64.2	93	23.9	28.9	85	411	480	87		10.8	11.0	98	
晩期コシ	観	大場	42.5	53.5	79	23.1	20.2	114	351	327	107		8.9	9.6	93	
	観	上辰巳	37.8	51.5	73	29.7	31.8	93	547	617	89		8.8	9.5	93	
平均			40.2	52.5	76	26.4	26.0	102	449	472	98		8.9	9.5	93	
酒米(古屋谷)	観	石川門	48.2	57.2	84	26.2	17.7	148	406	293	139		10.1	9.4	107	
	観	五百万		62.1	0		24.2	0		469	0			10.9	0	
平均			48.2	59.7	42	26.2	21.0	74	406	381	69		10.1	10.2	54	

<生育調査田からみた生育概況>

○ ゆめみづほ :

草丈は前年より短く平年並。茎数は前年及び平年並。

最高分けつ期は平年よりやや早い6月20日頃に迎えたと思われる。

幼穂長は8~20mm程度確認されており、出穂は前年並の7月14~15日頃と予想される。

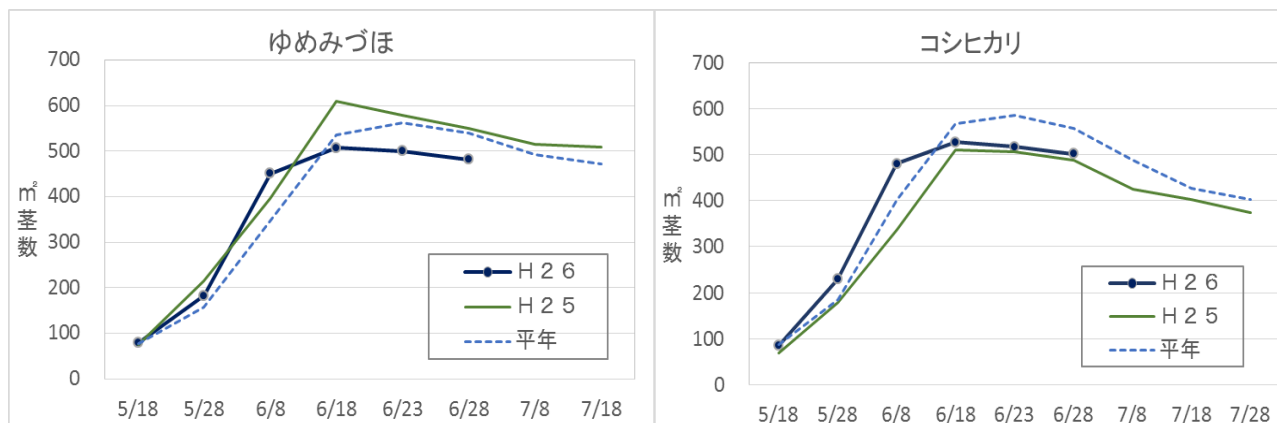
○ コシヒカリ :

草丈は前年よりやや短く平年並。茎数は前年よりやや少なく平年より少ない。

最高分けつ期は平年並の6月21日頃と思われる。

幼穂長は0~0.5mm程度確認されており、幼穂長からみる出穂予想日は前年並で平年より2日程度早い7月27~29日頃と予想される。

<参考：生育観測田の茎数の推移>



4 今後の管理

●品種別出穂期予想（6月27日現在）

品 種 名	平 坦	市 街 地 早 植 田 (平坦-2日)	山 間 地 遅 植 田 (平坦+2日)	穂肥施用目安	
				出穂前日数	幼穂長(ミ)
ゆめみづほ	7月15日	7月13日	7月17日	出穂23日前	1~2
五百万石	7月19日	—	7月19日	出穂18日前	10
コシヒカリ	7月28日	7月26日	7月30日	出穂16日前	15~20
晩期コシ	8月8日	—	8月10日	出穂16日前	15~20
カグラモチ	7月28日	7月26日	7月30日	出穂20日前	2~3
白山もち	7月29日	7月27日	7月31日	出穂23日前	1~2

上記の表は、6月27日現在の幼穂長および葉数の展開からの出穂予想です。
出穂については、今後の気温により変動しますので、今後の情報にご注意ください。

穂 肥 の 施 用

- ゆめみづほは幼穂形成期となっており、分施体系の圃場で、まだ第1回目の穂肥が未施用の場合はすみやかに施用し、第2回目の穂肥は7月5日頃に必ず施用すること。
- コシヒカリは、出穂30日前となっており下位節間の伸長時期を迎えることから、原則つなぎ肥は施用しない。
特に一発肥料は、分施体系に比べやや葉色が淡く推移する傾向はあるものの、穂肥分の肥料がこれから徐々に溶出するので、基準量を施肥している圃場では、つなぎ肥の施用は原則しないこと。
- PKけいさんの施用
ゆめみづほは、幼穂形成期となっていることから施用しない。
コシヒカリは、幼穂形成期前の施用とし、遅くとも7月3日頃までとする。

病 害 虫 防 除

粉剤散布の場合

防除時期	薬剤名・適用病害虫	散布量	備 考
出穂前7~3日 早生 7/8~12頃 コシ 7/21~25頃	ビームトレモンセレン粉剤DL いもち病、紋枯病、カメムシ類、 ツマグロヨコバイ、ウンカ類、コブノメイガ	kg/10a 4	収穫21日前まで
出穂後7~10日 早生 7/22~25頃 コシ 8/4~7頃	ラブサイドスタークル粉剤DL いもち病、カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ	kg/10a 4	収穫7日前まで
出穂後14~17日 早生 7/29~8/1頃 コシ 8/11~14頃	スタークル粉剤DL カメムシ類、ツマグロヨコバイ、ウンカ類	kg/10a 3	収穫7日前まで

粒剤散布の場合（市街地等粉剤散布ができない圃場）

防除時期	薬剤名・適用病害虫	散布量	備考
出穂前 14～10 日 早生 7/ 1～5 頃 コシ 7/14～18 頃	イモチエースキラップ粒剤 いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	kg/10 a 3	収穫 3 5 日前まで
出穂後 7～10 日 早生 7/22～25 頃 コシ 8/ 4～ 7 頃	スタークル粒剤（豆つぶ） カメムシ類、ツマグロヨコバイ、ウンカ類	kg/10 a 3（250g）	収穫 7 日前まで

※微粒剤の防除時期は粉剤と同じです。

<稲こうじ病の防除>

穂ばらみ期～出穂期にかけて雨が多く、低温で日照不足の年に発生が多くなります。前年多発した圃場では防除を実施して下さい。

防除の適期は、出穂 1 4～1 0 日前です。品種ごとに適期に防除して下さい。

薬剤名	10a当たり使用量	使用時期	使用回数
撒粉ボルドー粉剤DL	4kg	出穂10日前まで	-

※撒粉ボルドー粉剤 DL の使用時期は出穂 10 日前までとなっていますので、使用時期を厳守して下さい。（穂に付着すると薬害を生じます。）

水 管 理

- 早生品種は幼穂形成期となっているので、常に土壤水分を保つ飽水状態を維持するよう、間断通水を行う。
- コシヒカリの中干しは7月3日頃までとし、その後の水管理は常に土壤水分を保つ飽水状態を維持するよう、間断通水を行う。
- 晩期コシヒカリ栽培の中干しの終了の目安は7月15日頃とし、その後の水管理は常に土壤水分を保つ飽水状態を維持するよう、間断通水を行う。

着 色 粒 発 生 防 止 対 策

7月上旬までに農道、畦畔、河川敷、休耕田等の除草を徹底し、カメムシの生息密度低減を図る。

そ の 他

本田の後期除草剤については、収穫前日数に注意して使用してください。

<主な後期除草剤の使用期限>

ヒエクリーン1キロ粒剤	収穫前45日
クリンチャー1キロ粒剤・EW	収穫前30日
クリンチャーバスME液剤	収穫前50日
バサグラン粒剤	収穫前60日
バサグラン液剤	収穫前50日
サンパンチ1キロ粒剤	収穫前60日
ワイドアタックD1キロ粒剤	収穫前60日
ワイドパワー粒剤	収穫前60日

コシヒカリの倒伏について

現在の生育観測田におけるコシヒカリの草丈は、平年並となっている。

6月26日発表の向こう1か月の予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は平年並または高い確率が40%、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予想されており、稈長が伸びる恐れがあるため、注意が必要である。

幼穂形成期頃（出穂 23～20 日前）の生育診断指標を示すので、穂肥施用や倒伏軽減剤使用の判断等の参考にしてください。

1 倒伏診断

(1) 幼穂形成期の草丈（出穂 23～20 日前）

幼穂形成期（出穂 23～20 日前）の草丈が 70cm より長いと、倒伏の危険性が高い（図 2）。出穂前 13～14 日の草丈が 83cm 以下であれば、倒伏程度は 3 以下となる（図 3）。

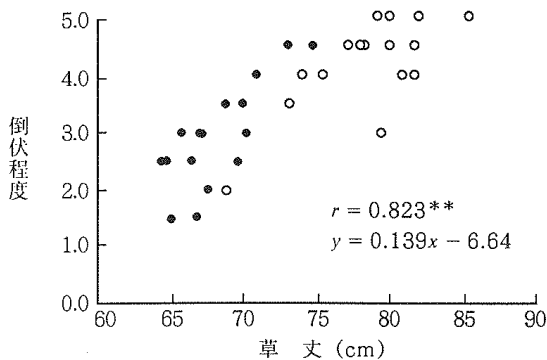


図2 幼穂形成期の草丈と倒伏との関係
(富山農枝セ 1988 未発表)

○ : 1986年 ● : 1987年

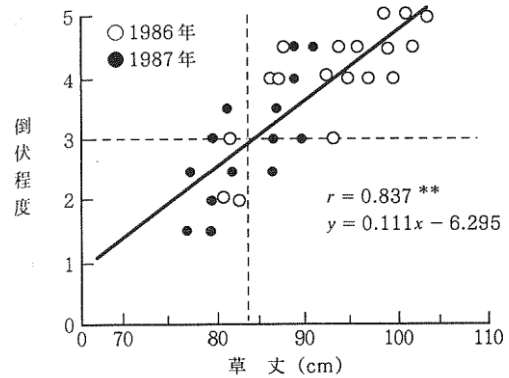


図3 出穂前13～14日における草丈と成熟期の倒伏程度との関係
(川口ら 1991 改写)

2 倒伏軽減剤の使用について

倒伏程度が大きいと予測される場合は、倒伏軽減剤の使用を検討する必要がある。なお倒伏軽減剤使用にあたっては、重複散布を避けるほか、薬剤によって使用方法が異なるので注意のこと。

[主な倒伏軽減剤]

	使用時期	10a 散布量	備考
ロミカ粒剤	出穂 20～10 日前	2～3 kg	散布後 5 日間湛水
スマレクト粒剤	出穂 20～10 日前	2～3 kg	散布後 5 日間湛水
ビビフル粉剤DL	出穂 10～5 日前	3～4 kg	
ビビフルフロアブル	出穂 10～2 日前	75～100ml (50～150 L)	葉茎散布